

ネットで生き生き学校ピオトープ

- インターネットを利用した共同学習 -

大阪府吹田市立西山田小学校 下村 研司

大阪府吹田市立山田第二小学校 豊留 由美子

キーワード：小学校，総合的な学習，環境教育，学校ピオトープ，学校間交流，

1．吹田の学校ピオトープの現状

現在，吹田市では山手小学校，西山田小学校，山田第二小学校などをはじめ小学校7校，中学校4校，幼稚園2園で学校ピオトープが作られ，さらにその動きが広がりつつある。

今年度から始まった「総合的な学習」のなかでも，環境教育は中心的な課題と考えられている。特に，人や自然とのつながりが薄れてきた中で，子どもたちの心の中に感動する心や人や自然との共生の精神を育む場として，「学校ピオトープ」は大いに期待されている。

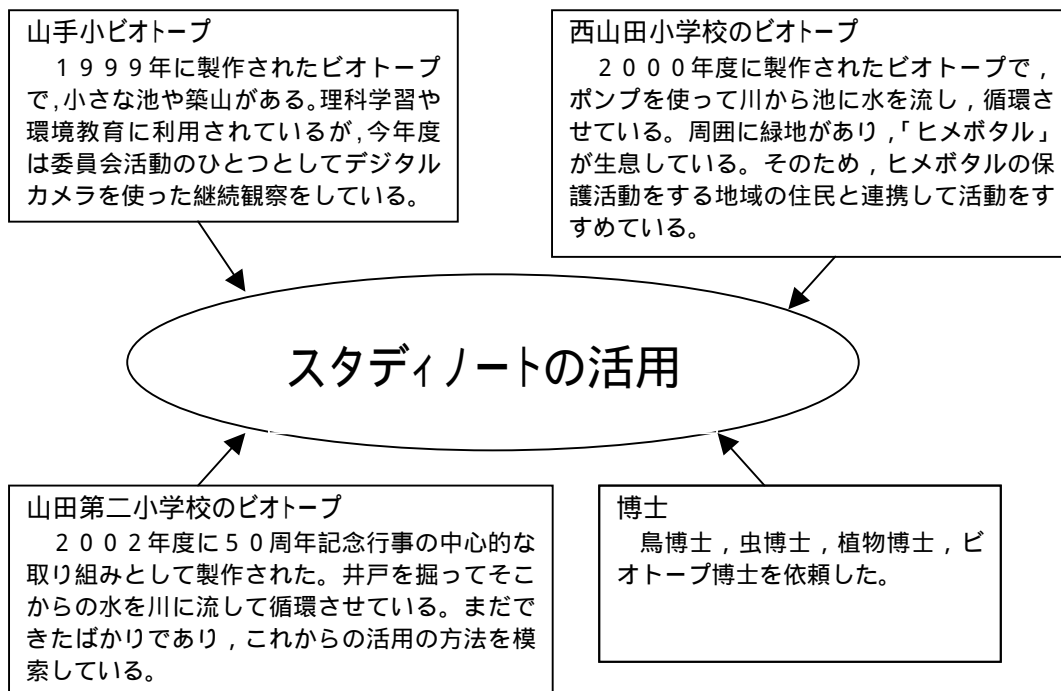
2．吹田市環境教育研究会では・・・

吹田市環境教育研究会は，吹田市立教育センターの研究グループのひとつとして，幼稚園，小学校，中学校の教員6名が集まり，今年度は「環境教育の中でコンピュータをいかそう」というテーマを掲げて，ピオトープやコンピュータの専門家を加えて活動している。

学校ピオトープは，先にも述べたように多くの学校で作られているが，作ったあとの活用については，困難な点も多々ある。また，コンピュータ教育も多くの学校で行われているが，それをどのように使うかについて悩んでいることも多い。この2つを組み合わせ「環境」「ピオトープ」を題材にしてコンピュータをいかそうと言うのが本研究会の研究課題である。

3．ピオトープ情報の収集・交換

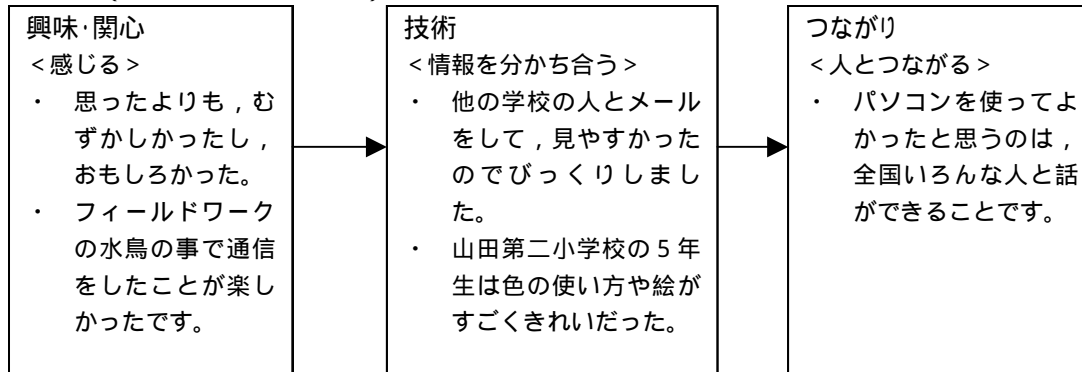
ピオトープのある学校を「スタディノート」をつかって，ネットでつないで情報交換することにした。また，専門知識を持っておられる方にその分野の「博士」を依頼し，その方々ともネットでつながれるようにした。



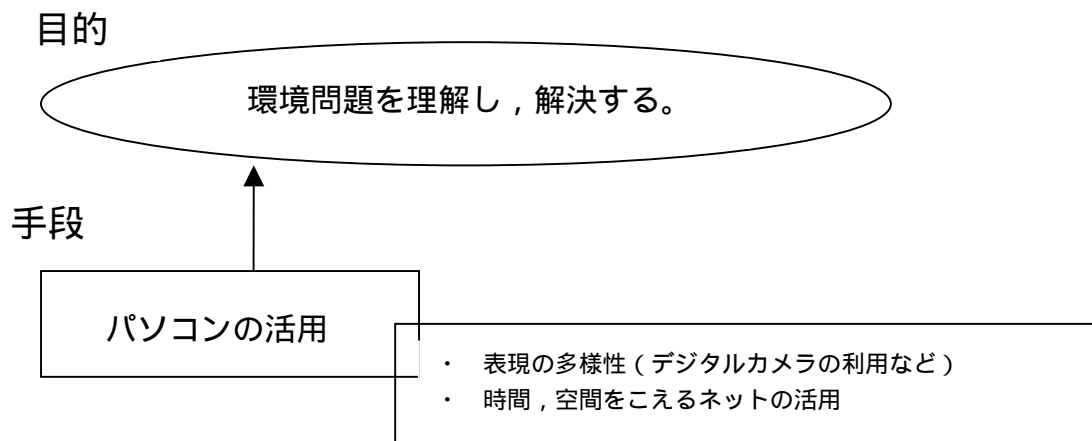
4. 環境教育とコンピュータの利用

今年度の11月から、西山田小、山田第二小、山手小の3校の間で、本格的にネットでの交流をおこなっている。西山田小学校の3年生では、「学校を紹介しよう」という活動を設定し、スタディノートでまとめた情報をネットに載せた。そのあと他の2校から返事があり、交流がすすんだ。やはり「ピオトープ」という共通の話題があることで、情報提示感想、質問 返答、情報提示 という流れがスムーズにいった。

子どもの感想（西山田小学校3年生）



この結果、環境教育とコンピュータの活用は、たいへん相性がいいのではという感想を持った。今後、環境教育を進める時の手段として、コンピュータを有効に利用できることがわかった。



5. ネットでつなぐもの

学校ピオトープの活用は、これまで校内での観察や記録にとどまっていた。しかし、今回のようにネットでつなぐことで、次のようなことができるようになった。

- ・ 他の学校のことを知ることによって、興味・関心が広がった。
- ・ わからないことを専門家に聞くことができる。

その結果、環境教育の取り組みの中に、広がりや深まりが出てきた。これからもこの交流を続けていきたい。

（注）ピオトープとは、「本来その地域にすむ生き物が生きることのできる空間」と定義されている。その中で、「学校ピオトープ」は、本来のピオトープよりも、より教育のために作られたものという性格がよい。